

アホウドリ1万羽達成
記念シンポジウム

100万羽の アホウドリが羽ばたく 未来を目指して

かつては数百万羽いたアホウドリ。

一時は絶滅したと思われたが、半世紀以上の地道な
保全活動により、1万羽まで回復！

シンポジウムでは、アホウドリの研究・保全活
動にたずさわってきた専門家から、これまでの
道のりと最新の状況を報告し、100万羽
のアホウドリが羽ばたく未来について
考えます。

2026年 **9月27日(日)** 10:00~17:00

会場

東京農業大学世田谷キャンパス 横井講堂

定員 **200** 名（参加費無料 / 事前申込みが必要です）

*鳥類や絶滅危惧種に興味のある一般の方から専門家まで、
どなたでも参加できます

お申し込みは
こちらから



オンライン

YouTubeで同時配信します

ご視聴は [こちら](#) から



主催 / 公益財団法人 山階鳥類研究所

後援 / 環境省、東京農業大学

（公財）日本鳥類保護連盟、（公財）日本野鳥の会

（一社）バードライフ・インターナショナル東京

お問い合わせ

公益財団法人 **山階鳥類研究所**

〒270-1145 千葉県我孫子市高野山115

☎ 04-7182-1101

<https://www.yamashina.or.jp>



Photo: 今野 怜

10:00～ 開会／祝辞

10:10～10:30 趣旨説明

● **アホウドリが歩んできた歴史**
● 富田直樹（山階鳥類研究所 研究員）

10:30～11:45 **session 1** これまでの保全活動の成果と現在の取り組み

アホウドリ保全活動の初期から現在まで、鳥島で行われてきた活動・調査研究や、鴛島で進められている新繁殖地形成事業について、これまでの成果、現在の取り組み、今後の課題を報告します。

● **鳥島アホウドリ(オキノタユウ) 集団の成長、1976-2018 年**
● 長谷川博（東邦大学 名誉教授）

● **鳥島アホウドリデコイ作戦**
● 佐藤文男（山階鳥類研究所 フェロー）

● **第三の繁殖地確立に向けて ～小笠原鴛島での取り組みと現状～**
● 油田照秋（山階鳥類研究所 研究員）

13:00～14:05 **session 2** アホウドリ類の保全活動

アホウドリを含むアホウドリ類を対象とした国内外の保全活動について、混獲対策などの事例を紹介し、アホウドリ保全に関する知見と課題を整理します。

● **アホウドリ類が直面している脅威**
● 鈴木康子（バードライフ・インターナショナル 主席海洋スペシャリスト）

● **アホウドリと漁業の共存を目指して ～漁業による『混獲』問題と、国内外の取り組み～**
● 越智大介（国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所 グループ長）

● **アメリカにおけるアホウドリ保全の取り組み**（ビデオ発表）
● Robert M. Suryan（アメリカ海洋大気庁アラスカ水産科学センター プログラムマネージャー）

14:15～15:40 **session 3** センカクアホウドリの生態と現状

別種レベルで異なることが判明した、尖閣諸島で主に繁殖するアホウドリ(センカクアホウドリ)について、その生態、分類、行動、尖閣諸島での繁殖個体数などの現状と課題を報告します。

● **なぜアホウドリは2種からなると言えるのか？**
● 江田真毅（北海道大学総合博物館 教授）

● **実は2種いたアホウドリ、学名はどうなる？**
● 山崎剛史（山階鳥類研究所 研究員）

● **衛星画像を用いた尖閣諸島におけるセンカクアホウドリのつがい数推定**
● 大坪二郎（いであ株式会社 国土環境研究所 自然環境保全部 部長）

● **センカクアホウドリの周年利用海域**
● 富田直樹（山階鳥類研究所 研究員）

15:55～16:50 **パネルディスカッション**

3つのセッションの講演を踏まえ、アホウドリが現在抱えている課題を冒頭で整理します。そのうえでパネリストを迎え、それぞれの課題解決に向けて必要な研究・保全活動について議論します。

【司会進行】 綿貫豊（北海道大学 名誉教授）

【パネリスト】 出口智広（兵庫県立大学大学院 准教授）
鈴木康子（バードライフ・インターナショナル 主席海洋スペシャリスト）
富田直樹（山階鳥類研究所 研究員）
北橋義明（環境省野生生物課希少種保全推進室 室長）

16:50 閉会の挨拶

● **富田直樹**（山階鳥類研究所 研究員）

鳥島のアホウドリ調査や環境省モニタリングサイト1000の小島嶼(海鳥)調査を担当し、国内各地の海鳥繁殖地を年中渡り歩いている。最近はセンカクアホウドリを探して海にも出ている。学生時代の2000年に乗船した海鳥類の混獲調査船からはるか遠くに見たのがアホウドリとの最初の出会であった。その後、縁がなかったが2014年から鳥島のアホウドリ調査に参加することで、繁殖中のアホウドリを目の当たりにし再会を果たす。



● **長谷川博**（東邦大学 名誉教授）

1973年に偶然出会ったイギリス人研究者に刺激され、ぼくは1976年に伊豆諸島鳥島で、途絶えていたオキノタユウ集団の繁殖状況調査(繁殖つがい数と巣立ちひな数の確定)を再開した。その後、現地調査にもとづいて、集団の繁殖成功度を改善し、この鳥を再生へと導くための積極的保全計画を提案した。多くの人々の協力によって、それらが実行に移され、成功を収めた結果、鳥島集団は平均して毎年7.8%ずつ指数関数的に成長した。



● **佐藤文男**（山階鳥類研究所 フェロー）

1991年の鳥島アホウドリデコイ作戦計画段階から山階鳥類研究所研究員としてアホウドリ復活作戦を担当、毎年デコイ設置、デコイ効果確認調査、デコイ回収で鳥島に上陸し、1996年にデコイ誘引によって1つがいを繁殖させることに成功。アホウドリ周年生態解明のためのGPS追跡研究、2008-2012年には小笠原鴛島へのアホウドリ雛輸送のための雛選定準備を担う。2019年まで継続して鳥島に通いアホウドリ保全活動を行った。



● **油田照秋**（山階鳥類研究所 研究員）

小笠原諸島鴛島へのアホウドリのヒナ移送プロジェクト開始の前年、2007年にクロアシアホウドリでの試験飼育に参加。その後進学を経て2018年より山階鳥類研究所研究員。2019年から鴛島のアホウドリ事業を担当。



● **鈴木康子**（バードライフ・インターナショナル 主席海洋スペシャリスト）

海鳥の研究・保全に20年以上携わり、2018年よりバードライフ・インターナショナルに勤務。現在は主席海洋スペシャリストとして、アホウドリ類をはじめとする海鳥の漁業混獲問題に取り組む。国内外の漁業者や行政、研究者と協力し、混獲を減らすための対策の普及や国際的な漁業管理機関への働きかけなどを進めている。オレゴン州立大学漁業野生生物学科博士課程修了(野生生物学博士)



● **越智大介**（国立研究開発法人水産研究・教育機構水産資源研究所 グループ長）

北海道砂川市出身(1980年生まれ)。北海道大学大学院水産科学院博士(水産科学)。離島でオオミズナギドリの研究をしていた。まぐろ漁業で発生する「混獲」問題に関わる。混獲にさらされる海鳥の生態研究や混獲を減らすための研究を行っている。国際的な場で混獲をはじめとした海鳥保全に関する議論にも関わる。



● **Robert M. Suryan**（アメリカ海洋大気庁アラスカ水産科学センター プログラムマネージャー）

2002年に日米間で開始された研究協力の一環として、アホウドリの研究を開始。それ以来、鳥島や鴛島の素晴らしいアホウドリ繁殖地を何度も訪れるなど、日本とともにアホウドリ類の研究・保全に携わる機会に恵まれた。アホウドリ類の海上での分布の追跡、商業漁業における海鳥の混獲に焦点を当てた研究を進めた。2002年の初会合以来、日米中心の国際的なアホウドリ回復チームの代表的メンバー。現在は、米国海洋大気庁アラスカ漁業科学センターにおいて、アラスカ全域を対象とした海洋生態系研究を統括。





● **江田真毅**（北海道大学総合博物館 教授）

筑波大学人文学類で考古学を、東京大学大学院農学生命科学研究科で生態学を、九州大学大学院比較社会文化研究院で分子生物学を学び、鳥取大学医学部では解剖学教育に携わる。2012年から現職。各分野の視点・手法を取り入れながら、遺跡から出土したアホウドリの骨とそこから派生した様々な疑問を探求している。専門は考古鳥類学と動物考古学。



● **山崎剛史**（山階鳥類研究所 研究員）

京都大学理学部卒、博士(理学)。鳥類の分類学・形態学・進化学を専門とする。アホウドリでは、鳥島と尖閣諸島の集団が別種であることを示す分類学的研究に参加した。その後、センカクアホウドリに適用すべき学名を明らかにし、現在は鳥島で主に繁殖する大型種の学名を研究している。



● **大坪二郎**（いであ株式会社 国土環境研究所 自然環境保全部 部長）

神奈川県横浜市出身。筑波大学・大学院で生態学を専攻。いであ(株)の陸域動植物担当部署に所属。主に希少種の保全事業や環境アセスメントに関わる業務に携わる。2012年から2020年にかけて環境省業務で伊豆諸島鳥島に15回ほど上陸し、アホウドリを観察する機会にも恵まれる。2022年にタイムラプスカメラを用いたアホウドリの観察結果について論文発表。

—— パネルディスカッション ——

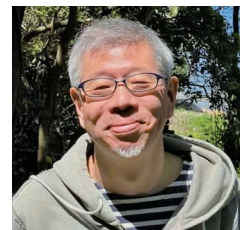
● **綿貫豊**（北海道大学 名誉教授）

1959年長野県生まれ。1987年北海道大学農学博士。国立極地研究所助手、北海道大学農学研究科助手、同大学大学院水産科学研究院准教授をへて教授、2024年退職。南極、北海道や北極域の孤島で海鳥の行動・生態研究をしており、特にバイオリギング技術も使って、気候変動と人間活動(特に海洋汚染)の海洋生態系への影響を海鳥の目を通して探ろうとしている。2タイプのアホウドリの越冬海域の研究プロジェクトに参加した。主な著書は「海鳥の行動と生態:その海洋生活への適応(生物研究社)」、「海鳥と地球と人間(築地書館)」



● **出口智広**（兵庫県立大学大学院 准教授）

北海道札幌市生まれ。専門は行動生態学と再導入生物学。北海道大学大学院農学研究科博士課程を2004年に修了後、山階鳥類研究所に入所。アホウドリ回復のための国際チームのメンバーとして小笠原への再導入計画を担当。2019年に兵庫県立大学大学院地域資源マネジメント研究科准教授に就任。現在はコウノトリやブッポウソウなどを対象に行動生態や再導入の教育研究を進めている。



● **北橋義明**（環境省野生生物課希少種保全推進室 室長）

大阪府守口市出身。1998年環境庁(当時)入庁。霞が関(本省)での国立公園、希少種保全、外来種対策等の担当や、釧路、箱根、仙台、十和田湖、熊本、日光、那覇での地方勤務等を経て、2025年9月より希少種保全推進室長。



アホウドリの個体数1万羽達成にあたり、以下の機関・団体・皆様をはじめ、多くの方々からご支援・ご協力をいただきました。心より御礼申し上げます。



環境省、文部科学省科学研究費、東京都、米国魚類野生生物局、公益信託サントリー世界愛鳥基金、三井物産環境基金、株式会社朝日新聞社、公益信託経団連自然保護基金、興和オプトロニクス株式会社、株式会社モンベル、キヤノン株式会社、株式会社NTTドコモ、澤藤電気株式会社、公益社団法人程ヶ谷基金、North Pacific Research Board、山階鳥類研究所賛助会員、アホウドリ寄附サポーター、百瀬淳子氏、渡邊ユキ氏、絹村光代氏、大聖寺バードウォッチングクラブほか、本活動にご賛同いただいた皆様